

◆ おわりに ◆

図書館 森園佳子

2015年度後期の後半から読み聞かせレッスンの活動が始まり、受講者は近隣の小学校で読み聞かせ実習をします。私も引率で小学校に行く機会が増えました。学生は1~2人ずつ教室に入り、朝読書の時間の15分間で絵本を読むのですが、どの教室でも子どもたちは学生の声に真剣に耳を傾け、ページから目を離しません。そのときいつも「子どもって本当におなはし好き、本好きだな」と実感します。それなのに、成長するにつれて読書は短時間になり、多くの人たちはいつしか本から遠いところで生活するようになります。ところが、読書運動プロジェクト（以下、読プロ）に入る学生メンバーは読書をずっと継続してきた人が多く、ミーティングでは本の話に事欠きません。文学散歩や選書ツアーといった、本好きにはたまらないイベントに惹かれて読プロに興味を持つ人もいます。同様に、朗読チームの学生も本好き女子の集まりですが、彼女たちは本の世界を声に乗せて届けたいという気持ちが強く、そのために作品を掘り下げ、咀嚼し、味わいます。さらには内なる自分と対話し、表現へと発展させていくのです。本とのかかわり方は本当にそれぞれだと感じます。

読プロの活動開始は2002年。2005年度からは4年間、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に採択され、著名な作家の講演会、音楽学部とのコラボ・コンサート、シンポジウムの開催など、大きなアクションで読書推進に取り組みました。そのころに比べると現在は、メンバーによる「自分たちが楽しむ本に関する活動」にシフトしてきています。そんな中、今年はメンバーから「読プロのような活動をしている他大学の学生と意見交換し、活動の参考にしたい」という提案があり、近年、読書推進活動で定評のある帝京大学の学生さんとの交流会が、9月に実現しました。交流会で刺激を受けたメンバーは、「今までとは違った展示で本の紹介がしたい」と意欲を見せ、折よく持ちあがった写真部とのコラボ企画で、趣向を凝らした展示を作りました。多くのフェリス生がそれを眺めて本を借りてくれ、本との出会いの場を提供できたことは嬉しいことでした。これからも自分たちも楽しみつつ、フェリス生に1冊でも多くの本を手にとってもらえるよう、力を尽くしたいと思います。

今年度も多くの方々のご支援をいただき、1年間を終えることができました。支えてくださった皆さま、ありがとうございました。今後とも読書運動プロジェクトと活動に携わる学生へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。